

伊藤忠商事のステークホルダーの皆様へ

代表取締役社長 小林 栄三



伊藤忠商事は、2006年3月期から中期経営計画「Frontier-2006」(2006年3月期から2007年3月期までの2か年計画)をスタートし、この2年間を安定的かつ継続的に連結純利益1,000億円以上を達成する高収益グループを確立する期間と位置付けました。変化を先取りし、常にFrontierを追い求め、私自身のモットーである「Challenge, Create, Commit」の実践による、収益規模の拡大と経営基盤の強化に、日々取組んでいます。

その初年度である2006年3月期決算において、「攻め」の面では、当期純利益をはじめとした主要利益項目において過去最高益を達成するとともに、全営業セグメントで売上総利益が2年連続増益となり、「稼く力」を着実に強化しました。また、先行布石として、消費関連分野や資源開発関連の分野において、今後高収益の見込める有望な投資を行うことが出来ました。

一方、「守り」の面では、NET DER (ネット有利子負債対資本倍率)が2.4倍となり、中期経営計画の期間中に目指した3倍を切るという目標を前倒して達成しました。

以上のように、当社は中期経営計画「Frontier-2006」における「攻めへのシフト」と「守りの堅持」を、着実に前進させています。

2006年3月期決算のポイント:

2006年3月期の決算における「攻め」と「守り」のポイントは、次のとおりです。

1. 「攻めへのシフト」の着実なる実行 - 収益規模の拡大-

連結当期純利益は1,451億円と、当社が従前より目指していた1,000億円を超過し、過去最高益を更新しました。そして、連結純利益の他、売上総利益(7,144億円)、法人税等、少数株主持分損益、持分法による投資損益及び会計基準変更による累積影響額前利益(2,169億円)、持分法による投資損益(517億円)、実態利益(2,520億円)*、さらに単体純利益(544億円)等においても、過去最高益を更新しています。特に、売上総利益については、前期比13.3%の増益、さらに、2年連続で全営業セグメントにおいて増益を達成しました。また、純利益については、連結では前期比ほぼ倍増、単体においても約1.6倍の増益となり、連・単のバランスのとれた、過去最高益の達成ということで、着実に収益規模を拡大しています。

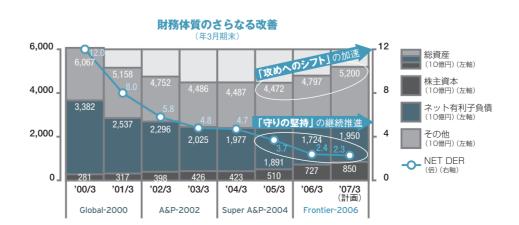
また、将来を見据えた収益拡大の為の先行布石として、(株)オリエントコーポレーションへの投資や、新 規エネルギー関連権益の獲得、鉄鉱石拡張プロジェクトへの参画に加え、繊維関連でのブランドビジネス においても、積極的な布石を着実に打つことが出来ました。

当社がこれまで取組んできました資産効率の向上と財務体質の改善が実を結び、安定的かつ継続的に連結純利益1,000億円以上を稼ぎ出す高収益グループの土台が出来上がりつつあると考えています。

*実態利益=売上総利益+販売費及び一般管理費+金融収支+持分法による投資損益

2.攻めを支える「守りの堅持」の更なる強化を推進 一財務体質の強化一

攻めへのシフトを反映し、連結総資産は、営業債権や投資の増加により前期末比3,247億円増加の4兆7,970億円となりました。また、連結株主資本は、7,268億円と過去最高額に達しました。一方、有利子負債のコントロールを継続して推進し、ネット有利子負債は前期末比1,668億円減少の1兆7,243億円となりました。それらの結果、NET DERは前期末比1.3ポイント改善の2.4倍を達成し、中期経営計画の目標としていましたNET DER「3倍を切る」ことを、大幅に前倒しで達成することとなりました。財務体質の強化が着実に進んでいると考えています。



「Frontier-2006」~攻めへのシフトと守りの堅持~最終年度を迎えて:

今後の当社グループを取巻く経営環境を展望すると、国内では、高水準の企業収益が雇用と設備 投資の増加をもたらし、生産と収益の拡大に繋がる好循環の状態を維持するものと見込まれます。

海外では、米国・中国経済はやや減速するものの引続き拡大し、欧州・東南アジア諸国経済は内 需中心の回復が加速するものと予想されます。一方、世界的な景気拡大によるインフレ圧力の高ま りについては、引続き注意を払う必要があると思われます。

中期経営計画「Frontier-2006」の更なる推進

このような内外情勢を踏まえ、当社グループは、「Frontier-2006」の最終年度である2007年3月期において、その基本方針を継続し、さらに強化していくこととしました。「攻め」と「守り」を支える最適な経営体制を構築し、攻めへのシフトを加速させると同時に、守りの堅持を継続して推進していきます。キーワードは「攻めへのシフトの加速」です。

(1) 収益規模の拡大:

縦の強化として、カンパニー主導での重点セグメントへの経営資源の投入を加速し、収益拡大を図ります。また、全社横断型プロジェクトの推進体制を強化し、当社グループの強みである消費関連分野並びに資源開発関連分野において横の強化を図り、収益力の拡大を目指します。更に、北米、中国・アジアの重点市場において一層の収益拡大を図るとともに、ロシア、インド、ブラジルを新興市場と位置付け、将来の収益への先行布石をより積極的に打っていきます。

(2) 新規ビジネスの創造:

少子高齢化や消費者ニーズの多様化が進む対消費者ビジネスを拡大、シニア層を中心として医療・介護・趣味・旅行等のライフ&ヒューマンケア分野を強化、先端技術分野ではグローバルな戦略提携を活かした先行布石と案件の早期収益化を目指します。また、「全社開発会議」を新設し、対消費者ビジネス、ライフ&ヒューマンケア、先端技術等新規ビジネスの取組を強化していきます。

(3) 守りの堅持の更なる推進:

有利子負債の厳格なコントロールを継続し、更なる財務体質の改善を進めるとともに、リスクマネジメント手法の高度化を進め、リスク管理を一層強化していきます。内部統制システムについては、継続的にモニタリングのうえ評価・改善を図り、絶えずその強化に努めます。CSR(企業の社会的責任)への取組については、ステークホルダーとのコミュニケーションを強化し、継続して改善・向上を図ります。また、更に透明性の高いコーポレート・ガバナンスの確立に引続き努めます。

(4)「攻め」と「守り」を支える経営体制の構築推進:

各組織及び個人のそれぞれの力、すなわち「現場力」の強化と、全体最適の観点を加味し10年後の当社グループの姿を見据えた連結経営の更なる強化に向け、業務改革プロジェクト「ITOCHU DNAプロジェクト~Designing New Age~」をスタートさせました。一方、人事制度については、人材多様化推進計画に基づき、高齢者、女性、外国人、キャリア採用者等多様な人材の活用を積極的に推進するとともに、グループ人材ポートフォリオの改善を目指していきます。

2007年3月期においては、2006年3月期を更に上回る連結純利益1,550億円を目指します。また、攻めへの更なる加速として、連結総資産は5兆2,000億円と2006年3月期末から約4,000億円の増加、ネット有利子負債についても約2,000億円強増加となる1兆9,500億円を見込むと同時に、有利子負債のコントロールを継続し、NET DERは、2006年3月期から更に改善する方針です。

Frontier-2006 計画・実績・見通し

(億円)

	Frontier-2006 当初計画		実績・見通し	
	2006年3月期 (計画)	2007年3月期 (計画)	2006年3月期 (実績)	2007年3月期 (見通し)
連結純利益	1,000	1,100	1,451	1,550
連結総資産	47,000	50,000	47,970	52,000
NET DER	3.3倍	3.0倍未満	2.4倍	2.3倍

以上の通り、2007年3月期において、当社は「攻めへのシフトの加速」をキーワードに、中期経営計画「Frontier-2006」で掲げた「攻めへのシフト」と「守りの堅持」に引続き取組むことで、当社グループの業績発展を図り、株主の皆様のご期待にお応えするとともに、地球環境問題への積極的な取組を含め、地域社会、国際社会に貢献していく所存です。

伊藤忠グループは、「Challenge精神旺盛で人間味溢れる良き企業市民」の集団で、社員一人ひとりが夢を持ち、夢を育み、夢に挑戦し行動し続け、ステークホルダーの皆様の期待に応える集団でありたいと、常日頃から私はそう願い行動しています。私は社長として「Challenge, Create, Commit」の精神を社員全員と共有し、全社一丸となって、会社を成長させていきます。

当社並びにグループ会社に対して、今後とも引き続き、ご支援とご理解を賜りますよう、お願いいた します。

2006年7月

代表取締役社長